



高知大学
Kochi University

All roads lead to the future リード

Lead

コミュニケーションペーパー

2021 冬号
Winter

No. 037

¥0

TAKE FREE

〈特集〉

〈特集1〉

学生一人ひとりに合ったキャンパスライフをサポート!

学生総合支援センター

〈特集2〉

海藻の未来を切り拓く!



がんばる先輩

歴史系ミュージアムの
学芸員として奮闘中!

高知市立自由民権記念館 学芸員

酵母の開発に取り組みつつ
博士課程で研究も!

高知県工業技術センター 食品開発課 研究員

Kochi University Topics

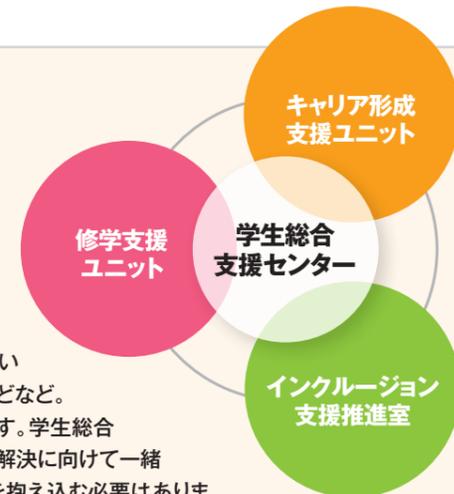
学生一人ひとりに合った キャンパスライフをサポート!

学生総合支援センター

新しい学び、初めての経験に遭遇する大学生生活は、時に、山あり谷あり。そんな困難や悩みを抱えた学生たちに寄り添い支えているのが「学生総合支援センター」です。現在の取り組みやこれからについて紹介しましょう。

大学院生も含め、約5500人の学生が学ぶ高知大学。その学生生活は高校時代とは違い、学業はもちろん、日常生活や課外活動、人間関係、健康管理など関わる領域が一気に広がります。それらは学生の成長を促す半面、悩みや不安からつまづききっかけになることも。高知大学ではこうした困難を抱える学生の支援のため、例えば学生の心と体の健康をサポートする保健管理センターなどさまざまな組織が取り組みを続けています。

今回紹介する学生総合支援センターは、充実したキャンパスライフを送ることができるよう、全学的な立場から学生の皆さんを支援します。学生生活全般をカバーし、キャリア形成支援ユニット、インクルージョン支援推進室、修学支援ユニットの3部署が支援を行っています。取り組みについて、センター長及び、各部署の長に話を聞きました。



センター長からの message

学生生活のいろいろな悩み 一人で抱え込まないで!

「大学の勉強がわからなくなってきた」「友達がいらない」「将来就きたい職業が見つからない…」などなど。学生の皆さんの悩みは多様化、複雑化しています。学生総合支援センターではできるだけ早く悩みを把握し、解決に向けて一緒に考えていきたいと思っています。一人で悩みを抱え込む必要はありません。センターでは悩みに精通した専門性を持った教員・職員を配置しているほか、保健管理センターなど適切な部署に橋渡しする役割も担います。

各部署に相談窓口を設けているほか、どこに相談していいのかわからない場合は学生支援課の「学生何でも相談室」(朝倉キャンパス)や「学生何でも相談窓口」(岡豊・物部キャンパス)で対応します。ささいなことでも構いません。相談内容に応じて、当センターも含め、相談機関を紹介しますので、気軽に声をかけてください。

また、センターでは学生だけでなく、高知大学を目指す受験生の悩みにも対応します。例えば受験時の車イスの使用など配慮が必要な場合、事前に相談を受け付けます。また、入学後にどのような支援が提供できるのか、受験前に相談を受けることもしています。全国の大学でも珍しい取り組みです。一昨年は実際に重度の障害を持つ受験生から事前相談を受け、入試体制を整えました。その受験生は高知大学に入学し、学業を続けています。

悔いのない学生生活を送るため、困りごとを抱えたとき、ぜひ学生総合支援センターの存在を思い出してくださいね。

01

未来を見据えたキャリアマネジメント力を養う キャリア形成支援ユニット

——キャリア形成支援ユニットではどのようなことを行っていますか？

学生への直接的な支援として、全学的なキャリア教育を行っています。昨年度、全学的なキャリア教育の体系構築の仕組みをつくり、卒業までの間、授業にどのようにキャリア教育を組み込むか制度設計を行いました。

まず、初年次科目と教養科目の中でキャリア教育を行います。キャリア教育というと就職のことだけを考えがちですが、学生に培ってほしいのは、卒業後の将来も自分でキャリアをマネジメントしたり、デザインするための「キャリアマネジメントスキル」です。そこで、1年生の時から少しずつ準備をしてほしいと思っています。



キャリア形成支援ユニット ユニット長
学生総合支援センター 特任准教授

森田 佐知子

香川県出身。関西学院大学経済学部卒業、同大学大学院経営戦略研究科修了。修士(経営管理)。専門はキャリア開発。佐賀大学キャリアセンターなどを経て、2018年に高知大学に着任。「研究対象の北欧では、キャリアの考え方には生涯学習やボランティア等も含まれます。学生の皆さんにも、そのような豊かなキャリアの築き方もある」というイメージを持ってもらいたいですね」

講義では、キャリア・マネジメントの基礎と合わせて、近年の就職活動の動きや就活の支援を行う「就職室」も紹介しています。さらに、選択科目の中にキャリア形成支援プログラムを設け、自己分析やコミュニケーション力を鍛えるような内容を取り入れます。

その後は各学部のディプロマ・ポリシーに沿って、学部独自のキャリア教育を行っています。——就職室とはどのように連携しているのですか。

公務員を志望する低学年の学生向けのガイダンスや就活相談カフェを、共同で開催しています。就活相談カフェは今年から始めた取り組みで、就活を経験した先輩学生と2、3年生が交流できるような場所づくり

として月1回開催しています。また、学生が個別で就職室に相談する内容を個人情報報がわからないような形で、今後の就職支援に役立つよう分析を進めています。



就職室の事務職員

就職室には、専門的な知識・経験を有する就職相談員がいます。相談員と就職室事務職員ユニット教員の3者で月に1回、連絡会を開き、相談員が実際に遭遇した就職相談の事例を取り上げ、どのような支援をすればよいかといった検討をしています。

——キャリア教育から学生に何を学んでほしいですか。

講義を受けた学生からは、キャリアに関する将来の選択肢の幅が広がった気がする、社会的スキルが身についたと思う、などの感想が返ってきます。やはり、進路選択に対して自信をもつて一歩を踏み出そうという、自己効力が上がっていると感じます。キャリアは、就職することで完結するわけではなく、納得したキャリアを歩んでいけるような力を、身に付けてほしいと思います。

ちょっとのぞき見 キャリアプランニングⅡはこんな授業

選択科目の「キャリアプランニングⅡ」は、キャリア形成の応用授業。4日間の集中講義(2020, 2021年はオンラインで開講)で、業界研究の方法や多様な働き方を学びます。特徴的なのは、2日間にわたって行われる課題解決プロジェクト。グループワークを通じて、具体的な企業の課題解決に取り組みます。5、6名のグループに分かれ、企業が抱える課題を解決するビジネスについてのアイデア出しから始まり、どのプランをグループとして提案するのかを話し合います。きちんと討議することで、コミュニケーション力を磨くことができるとともに、将来、社会人になったときにどのように自社の課題を解決していくかという仕事のシミュレーションを体験することにもなります。参加した学生からは、次自分がやるべきことが見えてきた、といった感想が上がっています。



学生総合支援センターセンター長
教育研究部 人文社会科学系
教育学部門 教授

小島 郷子

大阪府出身。福岡教育大学大学院教育学研究科修士課程修了。修士(教育学)。1994年4月、高知大学に着任。



学生支援課の職員

多様な学生のための学びの場を整備 インクルージョン支援推進室



— インクルージョン支援推進室は、どのような学生支援を行っていますか？

「包括」という意味を持つインクルージョンの名の通り、学生の多様性を尊重し、すべての学生が学び参加できる大学として維持し、推進することが目的の組織です。

学生に障害や疾病があり、修学上の困難がある場合、大学は教育の機会を確保するための「合理的配慮」の提供の義務があります。推進室はその対応の窓口となっており、何に困り、どのような配慮が必要かについてヒアリングをします。学生とどのような支援が必要か相談して、学生の所属する学部等での審議を依頼し、部等の会議でその合理性を検討決定します。学生だけでなく、高知大学を目指す受験生か

らも応じています。

合理的配慮の中で全国でも特色があるのが、欠席時の配慮です。教育を受ける機会の確保をする目的で、例えば症状や調整困難な受診によって授業を欠席した場合等に、定められた手順で授業担当教員に代替課題等の措置を講じてもらい、それを遂行することで出席扱いしてもらおうとできる制度があります。

— そのほかにもどのような取り組みをしていますか？

「障害者入門」という講義の演習として、学生と一緒にキャンパスを調査し、バリアフリーマップを作っています。学内のバリア箇所を見つけて改善できるように整理し、大学に提案も行います。障害の有無にかかわらず、学生が意見を

出していくことがポイントです。障害や多様性の理解の啓発にもつながると考えます。

— 推進室で運営している「からふるバレット」について教えてください。

キャンパスライフ支援ルーム「からふるバレット」は、さまざまな学生が自由に使える空間として、居場所としても活用できるように開放しています。職員が常駐し、学生の相談を受けられる窓口にもなっています。学生の交流の場にならねど、月1回、学生同士でワークショップなどを行う「からふるバレットカフェ」を開催したり、学祭に参加したりしています(いずれも、コロナの状況を考慮して実施)。

— 今後、どのような取り組みをする予定がありますか？

障害学生の就労支援に取り組んでいこうと考えています。特に発達障害・精神障害の場合、職業マッチングが本人だけでは難しい場合があり、その場合には自己理解が進められるような支援が必要です。身体障害についても、支援が足りない状況です。しっかりとサポートできる支援体制をつくっていききたいと思っています。



インクルージョン支援推進室 室長
学生総合支援センター 特任助教

高橋 由子

福島県出身。白鷗大学教育学部卒業、高知大学大学院総合人間自然科学研究科修士課程教育学専攻修士修了、現在、同研究科博士課程医学専攻に在籍、修士(教育学)。2021年、高知大学に着任。「発達障害児者の支援方法や指導方法について研究しています。推進室ではこれまで、発達障害学生に対する直接的な支援はほとんどしていなかったのですが、スキル指導のようなアプローチもできればと考えています」

大学でまなぶための基本スキルをサポート 修学支援ユニット



— どのような支援を行っているのか教えてください。

主に学生が授業に参加できる条件を整えられるようにサポートします。学生に対する直接的な支援として、つまづきやすいレポート作成について、各学部が必修科目として開講している初年次科目や共通教育科目の中で、レポートの書き方を学ぶ「アカデミックライティング講義」を組み込んでいます。また、eラーニングによる自主学習ができる「レポート作成セミナー」を作成し、自由にレポート作成を学べるようにしています。

個々の授業に関する相談や困りごとについては、「オフィスアワー」の活用を勧めています。オフィスアワーは授業担当教員が学生の

質問や相談を受け付けるための時間を定めた制度です。どのような時に相談するといいか、相談時間の予約の取り方などの情報提供をしています。その他の学修サポートについても、困りごとのタイプ別に、随時情報提供を行っています。また、部活やサークルなどの課外活動についても、活動を通して大学に適應するための支援として、教育的な観点から調査情報提供を行っています。

— 教員を介した支援も行っているそうですね。

本学では学生に対し、アドバイザー教員を配置しています。学生にとって最も身近な相談相手として、大学生生活を送るうえでの困りごとや進学、就職などに関する相談を受けま

す。アドバイザー教員によるダイレクトな学生支援は、高知大学の教育の質を保証するうえでの要となります。

アドバイザー教員は定期的な面談を行うことで、学生の現状認識や進路決定を促さなければなりません。また困難を抱える学生に気付き、支援方法を考える、サポートのセクションに



教員を後方支援する目的で作成した冊子・パンフレット(2021年度発行)

なげるなどの措置も担います。そこで修学支援ユニットではアドバイザー教員の在り方について全学的な検討を行い、研修などを行って学生対応の基本的な質を高めるように努めています。現場で学生を指導する教員を後方支援しながら、学生のサポートにつなげるという考え方をしています。

— 今後、力を入れたい取り組みは何か？

学術情報基盤図書館との連携という教職協働での「パスファインダー」の整備です。パスファインダーとは、あるテーマについて調べるときに役立つ基本的な図書資料やその探し方を紹介した情報資料です。すでに、レポート作成の基本的な情報や、さらに詳しい情報へのアクセス方法を紹介したパスファインダーを制作しました。今後はさらに充実させたいと考えています。



修学支援ユニット ユニット長
学生総合支援センター 講師

坂本 智香

高知県出身。高知大学教育学部卒業、神戸大学大学院総合人間科学研究科コミュニケーション科学専攻修士、博士(学術)。専門は言語学。2016年、高知大学に着任。「現在は日本語文法とアカデミック・ライティング教育を研究しています。大学院生時代にアカデミック・ライティング教育に出会って、大学生が目的に合ったレポートを書けるようになるための指導方法・評価方法を研究し、支援にも活かしていく必要性を強く感じました」

ちょっとのぞき見 アカデミック・ライティング講義はこんな授業

大学での学びで欠かすことができないレポート作成。しかし、苦手な学生も少なくありません。講義ではまず、レポートと作文の違いから説明。「である体」と「です体」という文体の違い、作文は自分と気持ちなどをつづる自分中心の文章であるのに対し、レポートが客観的な要素を必要とすることなどを学びます。

特に学生が驚くのが、レポートにも様々なジャンルがあるという点です。例えば「調査・研究レポート」ならば、疑問に思ったことを問いとして設定し、根拠を提示、問いの答えを論じるという書き方をしなければなりません。そのほかにも「読書レポート(ブックレポート)」「意見レポート」などがあり、書くべきレポートのジャンルを考えるとどこから始めなければなりません。受講した学生からは、「もっと早く知れたかった」という感想が多く寄せられます。



学術情報基盤図書館(中央館)2F アクティブ・ラーニングフロア

ちょっとのぞき見 からふるバレットはこんな場所

朝倉キャンパス共通教育1号館の一角にあるからふるバレット。入り口に置かれた黒板には読書・飲食・勉強・おしゃべりのスペースと紹介され、9時から17時まで開室しています。明るい室内は壁に面してベンチが置かれ、テーブルが点在。中央にはバランスボールが置かれ、訪れた学生は好きな場所に座り、思い思いに過ごします。

例えば講義が空いた時間に課題をやったり、昼食を食べたり。職員と雑談を楽しむ学生もいれば、課外活動の計画を立てるグループも。テーブルの上に「一人で過ごしたいです」というメッセージカードを置いて、黙々と本を読んだりすることもできます。

ボードゲームに興じるなど学生同士の交流の機会になっていたからふるバレットカフェはコロナの影響で休止していましたが、状況を見ながらの再開が計画されています。にぎやかな声が室内に響く日も近いかもしれません。



「海藻」の未来を切り拓く

日本で海藻が採れなくなっている？ 養殖で増やすことは可能？
海藻研究における日本屈指の専門家、
教育研究部総合科学系の平岡雅規教授が解き明かします。

アオノリの陸上養殖に日本で初めて成功！

平岡先生が高知大学に赴任したのは2004年。その前は室戸市にある高知県海洋深層水研究所で、お好み焼きなどに欠かせない青のりの原料であるスジアオノリを研究していました。海洋深層水は海の表層水よりも温度が低く、年間通して11〜12℃を保ちます。この特徴に着目し、低温下でよく育つスジアオノリの養殖に海洋深層水を利用できないか、と考えたのです。

「水温が高くなるとスジアオノリは胞子を作ってしまうので、利用できなくなります。陸上のタンクで養殖するならば、夏は冷却器で冷やす必要があります。電気代がかかり過ぎます。低温の海洋深層水をかけ流しで使えば、年間通して生長し、経費もぐっと抑えられます」

平岡先生が主導したスジアオノリの陸上養殖は、日本で初めての成功例となりました。その後、高知大学に赴任。現在は古くからの漁業の町、土佐市宇佐町にある海洋生物研究教育施設で研究に取り組んでいます。「ここは海洋生物の研究に絶好の場所です。建物のすぐ隣が海で、ひねると海水が出る蛇口もあって、研究室で海藻の研究が放題。船も3隻備えていますし、これほど充実している地方大学の施設はほかにないでしょう」と平岡先生は話します。

平岡先生が大きなテーマとする海藻の陸上養殖のなかでも、近年、力を入れているのが、地下水を使った方法。地下水とは、海の近くに井戸を掘って得られる海水のことです。



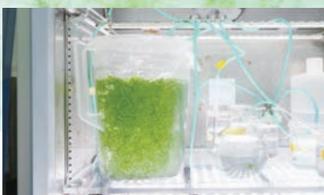
▲ひねると海水が出る蛇口



▲研究所敷地内の陸上養殖施設



▲生育状態を視目で確認



▲エアレーションで培養中のスジアオノリ



▲卒業研究に打ち込む理工学部4年生

「最初に研究の場となったのは、愛媛県の大幡浜市にある離島の大島。市から離島振興のために海藻を養殖したい、という相談を受けて研究をスタートしました。陸上養殖の場は、堤防のすぐ内側にある廃校。グラウンドに井戸を掘って、湧き出した水温18℃の地下水を使うようにしました。海洋深層水と比べると水温が高いので、全国から高温に強いスジアオノリを探して利用しました」

地下水を陸上養殖に使うメリットとして、水温が低めで年中一定しているほか、地層を通じて濾過されているということもあげられます。海洋深層水には微小な生物が混じっている可能性がありますが、地下水は地層で濾過されるため海老やカニなどの甲殻類や藻類が含まれません。このため甲殻類アレルギーがある人でも、地下水を使って養殖された食品は安心して口にすることができるとのことです。

産学連携の共同研究で、これまでにない海藻養殖へ

平岡先生がもとめと専門とするのは、スジアオノリを含むアオサ類の系統分類や生殖戦略など。天然スジアオノリの最大の産地、四万十川河口にはもう20年近く、調査のために毎月通っているそうです。しかし、四万十川のスジアオノリは、いま、危機的状況に陥っています。かつては年間10〜20トンの生産があったのですが、その後激減。最近、数百キロしか採れない年が2〜3年続き、昨年はとうとう生産量がゼロになってしまいました。

「原因は温暖化です。この100年で、世界の海の平均水温は0.6℃ほど上がっています。なかでも黒潮の温度上昇は顕著で、1.2〜1.3℃も高くなっています。四万十川でスジアオノリが生育するのは、海水と淡水が混じる河口の汽水域。海から温かい海水が入り込んで水温が上がると、順調に生長できなくなってしまうのです」



▲四万十川河口汽水域でのアオノリ生育調査
研究室の卒業生で四万十市職員・辻祐人さん(左)と毎月実施中



▲四万十川河口汽水域でのアオノリ網栽培試験
アオノリの種苗を着生させた網を現地で育てる試験

バイオマスとしても海藻は利用できる！

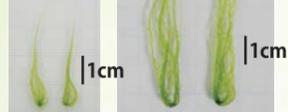
四万十川での深刻な不漁をカバーしているのが、室戸市で地下水による陸上養殖を手掛ける合同会社シーベジタブル。平岡先生が率いる高知大学海洋植物学研究室の卒業生による高知大学発のベンチャー企業です。平岡先生から学んだ技術により、以前の天然アオノリ収穫量とほぼ同じ、年間約20トンを生産しています。スジアオノリだけではなく、温暖化によって日本では海藻全般が採れなくなっているとのこと。こうしたなか、海藻が欠かせない食品メーカーが困ってしまう、産学連携の共同研究の依頼がよく舞い込むようになってきました。平岡先生の研究は、今後、社会から一層求められるものになっていくことでしょう。

アオノリに関しては、ミナミアオノリという種類の増やし方も研究。これは食用ではなく、これまでないバイオマス(生物資源)として、栄養食品などに活用しようとするものです。「アオノリの乾燥重量の約3割は炭素。生長すればするほど、二酸化炭素を吸収することになります」と平岡先生は解説します。

ミナミアオノリは美味ではありませんが、スジアオノリ以上に速く生長するのが特徴。温度が高いときには爆発的に増え、水温30℃のもとでは1日で4倍に増えるそうです。今後、平岡

先生の研究をもとに、ミナミアオノリがバイオマス生産に貢献できると期待されています。

いま取り組んでいる研究のなかで、特筆されるのはヒトエグサの陸上養殖。一般的には「アオサ」と呼ばれ、ふりかけや天ぷらの食材などとして利用されている海藻です。その体は通常、葉っぱのような多細胞。しかし、無菌の海水で培養するとそうした形にはなりません。これは海水に含まれる細菌のなかに多細胞化を促す因子があるからだそうです。



▲初期の発生段階
▲30℃で48時間培養後の藻体



▲ヒトエグサ

ここまでは以前からわかっていた事実。平岡先生はその先を知りたいと、無菌状態のフラスコに単細胞のヒトエグサを入れて、試しにエアレーションで泡をばこばこあててみました。「すると揺れが影響したのか、一晩ですく増えて、フラスコの中が抹茶のようになりました。そこに多細胞化を促す細菌を加えると、葉っぱのような形に変わったんです。これは新しい発見で、高知大学として特許を出願しました」。2段階で効率的に増やすこの方法で陸上養殖をしようと、準備をしているところです。



総合研究センター 海洋部門
(教育研究部 総合科学系 黒潮圏科学部門 教授)

平岡 雅規

大阪府出身。神戸大学理学部卒業、同大学院中退。愛媛大学連合大学院で博士号(学術)を取得。NEDOフェローを経て高知大学へ。専門は海藻類の生理、海洋深層水の養殖利用、有用海藻増殖など。「陸上植物は形が複雑でややこしい。海藻は単純なので計測が楽です(笑)」

ミナミアオノリ
葉状体クラスターの最大成長



▲沖縄県伊江島産ユミカガタオノリ地元では食用でスーナと呼ばれる今や希少種

大学大学院では何を学びましたか？

もともと、音楽の教員になりたいくて、音楽を専門的に学べる芸術文化コースに入学しました。このコースでは、教員免許のほかにもいろいろな資格が取得でき、それが単位にも認定されるという、うれしい仕組みがあったんです。それなら学芸員の資格も取ってみたいかなと考え、取得のための授業を受けてみると、すごく面白い。一番魅力を感じたのは、昔の人が作ったものに直接触れられるところです。保存の仕方によって、残っていくかどうかが決まることにも強くひかれました。そこで方向転換し、学芸員を目指して、愛媛大学大学院に進んで西洋美術史や美術教育を専攻しました。



▲館内を説明してくれる浜田さん



▲高知県内の小学校への出前授業も担当

仕事の面白いところ、難しいところは？

大学院修了後、高知県立高知城歴史博物館に就職しました。専攻を活かして教育普及の担当となり、館と

などを行う仕事に就きました。とはいえ、自由民権運動に「わしかつたわけではなく、最初はわからないことだらけで」。特に史料に書かれた「崩し字」は難しく、読解するのにとても苦労しました。大変なことも多いのですが、すごくやりがいのある仕事です。

来場者をつなぐコーディネーター役を務めたのですが、イベント関係の仕事がメイン。もともと史料を触って研究もしてみたいという気持ちから、2年後、高知市立自由民権記念館に移り、史料整理や活用

歴史系ミュージアムの学芸員として奮闘中！



高知市立自由民権記念館
学芸員

ほま だ み ゆ
浜田 実佑 (30歳)

教育学部 生涯教育課程 芸術文化コース
2014年卒業

高知県黒潮町出身。2010年、芸術文化コース(音楽)に入学。卒業後、学芸員を目指し、愛媛大学大学院で学ぶ。高知県立高知城歴史博物館を経て、高知市立自由民権記念館へ。自由民権運動の思想家・活動家のなかでは「みんなすごいですが、一番好きなのは植木枝盛。天才だと思います」



OB・OGを紹介

がんばる！先輩

社会で活躍する

酵母の開発に取り組みつつ、博士課程で研究も！



高知県工業技術センター
食品開発課 研究員

ほ き よし ろ う
南木 嘉朗 (31歳)

大学院 総合人間自然科学研究科
農学専攻 2016年修了

生まれは愛媛県で、両親が高知県出身。近畿大学農学部、高知大学大学院を経て、高知県工業技術センターに就職。仕事を続けながら、2021年4月に博士課程へ。若い世代には高知酵母「CEL24」の酒がおすすめです。「高知の酒のなかでは珍しく甘めで、香りが飛びぬけて高いんですよ」

大学大学院では何を学びましたか？

10代の時、酒造会社の多い西宮市で暮らしたことから、将来、お酒に関する仕事をしたいなと思って、近畿大学で微生物について学びました。



▲酵母の状態を顕微鏡で観察



▲無菌装置内で酒蔵へ渡す酵母を植える

ただ、研究テーマがお酒とは直接関係なかったのですが、実際にお酒の研究ができる高知大学大学院の応用微生物学研究室に進んで学び直しを。高知はやつぱり、食へものもお酒もおいしいと思いました。

修士論文のテーマは「地場産業の活性化を目指した吟醸酒醸造法の改良と地場品を用いた焼酎醸造法の開発」。いま働いている工業技術センターと共同で、がつりとお酒の研究をしました。研究を社会で活かし、成果を得る喜びを経験できたことが

工業技術センターではどういった仕事を？

食品開発課に所属し、主に酒類に関する研究をしています。現在の研究テーマは「酵母ライブラリーの充実と醸造特性の解析」「土佐酒の県産米利用率向上をけん引する新規酒米に関する研究」です。具体的には、清酒を作るのに必要な新しい酵母の開発や、県産酒米の性質に関する調査、民間の依頼を受けての研究や技術相談、研修なども行っています。発酵にはたくさんの要素が絡んできます。清酒の場合は特にそうで、糖分



キャンパスライフひと言アドバイス

大学で専攻した音楽とは無関係の仕事に就きました。しかし、音楽を通して物事を深め、自分と対話をした経験は、今の自分の芯になっています。学生時代の日々は将来、絶対にどこかで生きてくるので、目の前のことに積極的に取り組むことをおすすめします。

思っていた通り、本物の史料に実際に触れられるのはとても面白い。なかなか見られないものを目にすることができるといって特別感もあります。教育普及活動も続けており、小学校への出前授業などに取り組んでいます。

企画展の担当も任せられたそうですね

当館では学芸員が2年に1回ほど、企画展を切り盛りします。私は昨年、



▲民主主義運動に参加する民衆の像

これからの目標と記念館のアピールを

1人でも多くの人に、当館に来てもらうことが目標です。自由民権運動って難しく、と思われるかもしれませんが、いまの政治に直結している部分もあって面白いですよ。企画展についても、毎回、良いものを作ろうと頑張っています。歴史を好きになったり、地元に愛着を持ったりするきっかけにもなるはずです。ぜひ訪ねてみてください。

いま博士課程で学んでいるそうですね

高知県庁には大学院派遣研修事業があり、社会人になってからでも、博士課程に進みやすいんです。研究対象はやはり酵母。高知県は多様な酵母を持つていますが、特性が一部しか明らかになっていません。そこで、把握できていない特性を整理し、新たな酵母の開発発に近づけていきたいと、博士課程に進みました。また、酵母をいったん深海に沈めたのち、酒造りに利用するプロジェクトが進んでいるので、その研究も行いたいですね。



▲工業技術センターが開発に関わった商品

これからの目標を聞かせてください。

酵母には特定の香りが強いもの、香りのバランスがいいもの、特定の酸が多いものなど、いろいろなタイプがあります。なかでも、僕が注目しているのは酸味、コハク酸、リンゴ酸、乳酸、酢酸などのバランスによって酸味は変わります。こうした酸味の組み合わせを明らかにして、酸味に特徴のある酒を造る酵母を開発したいですね。



キャンパスライフひと言アドバイス

学生時代には、興味のある分野を突きつめるといいと思います。そうした学びが活かされる業界や会社は、必ずあるものです。僕の場合、自分の強みを持てるようにと、あえてニッチな方向に進んだ結果、いまの仕事につながりました。

IoT共創センターが10月1日に設置されました

IoT共創センターは、本学におけるIoTプロジェクトの全学的な拠点として、設置されました。

IoT (Internet of Plants) とは、作物の生理生態情報の見える化・使える化・共有化を実現した技術です。まさに農学における格言、「稲のことは稲に聞け、農業のことは農民に聞け」(近代農学の祖 横井時敬氏(東京農業大学初代学長))を、現代のICTやAI技術を活用して具現化した技術になります。

センターには大手IT企業でAIを活用した農業生産の高度化を担ってきた開発チームから複数の研究者を新たに招聘するなど、企業で活躍していたトップレベル人材や他大学の研究者等、外部人材も積極的に登用し、本学の研究者と連携しながら、日々開発を進めています。また、センターの意思決定にも京都大学・高知工科大学のIoTプロジェクト中心研究者や高知県、高知県農業協同組合中央会、IoT推進機構に参画してもらい、学内だけでなく外部視点を取り入れたセンター運営を実施しています。



今後、産学官民での共創により、施設園芸分野のIoTに関わる研究開発を推進するとともに、IoT技術を生産者へ普及させます。また、施設園芸分野で培ったIoT技術を一次産業全体のデジタルトランスフォーメーションへと進化させ、一次産業力を強化し、持続可能な地域社会と国際社会の発展に貢献します。

藤原拓名誉教授らが開発した装置が、第47回優秀環境装置表彰「経済産業大臣賞」を受賞

令和3年7月14日、一般社団法人日本産業機械工業会主催の「第47回優秀環境装置表彰」において、藤原拓名誉教授(現在:京都大学教授)が、前澤工業株式会社及び日本下水道事業団(JS)と共同で開発した装置が経済産業大臣賞を受賞しました。

また、本件に携わった主たる開発者として、藤原拓名誉教授とともに、高知大学卒業生の宮前祥子さん、稲森奨さん、陳小強さん、田中一輝さんが一般社団法人日本産業機械工業会会長より表彰されました。



サッカー部が四国大学トーナメントで優勝、全国大会出場

高知大学サッカー部が、7月17日に行われた四国大学サッカートーナメント(総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント四国地区予選会)決勝戦で、高松大学を3-1で下し、3年連続30回目の優勝、全国大会への出場を果たしました。



蛇籠(じゃかご)でネパールの治水支援 キックオフミーティング開催

国際協力機構(JICA)の公募する「草の根技術協力事業」において、本学が提案した「住民参加で行う低コスト型蛇籠護岸の普及と河川防災活動支援事業」が採択され、令和3年8月18日(水)にJICA、本学及び参画機関によるキックオフミーティングをオンラインで開催しました。

本事業では、ネパールの現地技術者に対し、高知県の防災対策と高知大学の知見を活かした河川氾濫などの対策となる防災蛇籠の設計・施工技術の移転を行います。また、日本及びネパールの技術者が協働して、ハザードマップ作成など防災についての各種啓蒙活動を現地住民とともに実施することにより、現地住民による持続的かつ自律的な防災活動の体制構築を目指します。



大学院博士課程及び教職大学院を改組

大学院応用自然科学専攻(博士課程)及び教職実践高度化専攻(教職大学院)を令和4年4月に改組します。

教職実践高度化専攻

- 5教科(国語・算数・数学・社会・理科、英語)の教科領域科目の増設
- デジタル教育関連の科目を新設

応用自然科学専攻

- 博士(理学)に加え、博士(理工学)の学位を授与
- 基礎理学、応用理学及び理工学の分野横断的な連携

子どもたちが
自律的に未来を開いていくための
指導ができる教員を養成

研究開発型人材・
理工系高度専門職業人を
輩出

高知大学医学部、高知市内中心部に「オープンイノベーション拠点 MEDi (メディ)」を開設 ~産学官連携、医療×テクノロジーで国際的課題を解決~

医学部は、ビジョン・ターゲット・目標を共有する産学官の関係者が部局や所属機関の垣根を越えて、パートナーとして研究開発成果の検証・社会実装、イノベーションマインドの醸成などを実践することができる「地域共創の場」として、「高知大学医学部オープンイノベーション拠点 MEDi」を高知市内中心部に開設しました。

- 1 産学官の枠組みを超え、自治体と入居企業が開設・運営に協力
- 2 医療・ヘルスケア関連領域における地域的課題から国際的課題の解決を目指す
- 3 入居企業は、高知大学医学部が技術提供やアドバイスで全面的にバックアップ



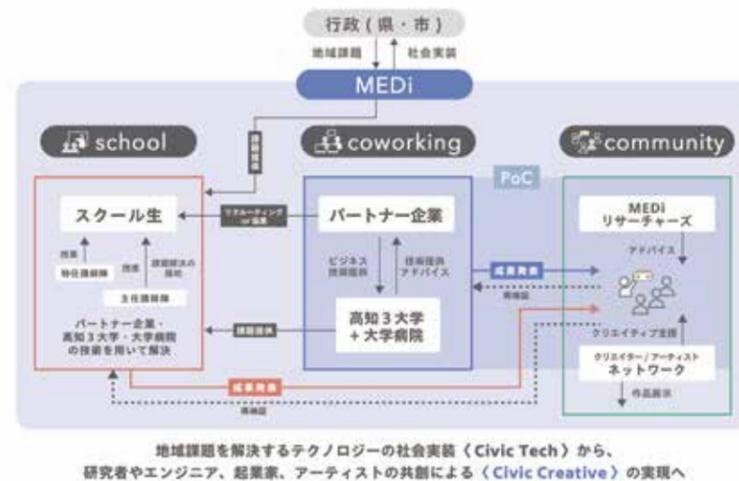
▲「医療×VR」学の産学官連携も指導



MEDi外観▲

高知駅南口より
徒歩9分
蓮池町通より
徒歩3分

〈入居予定企業〉
株式会社Psychic VR Lab/株式会社BiPSEE
株式会社アルファドライブ高知/株式会社UNIVEX



高知大学医学部オープンイノベーション拠点 MEDi

〒780-0842 高知県高知市追手筋1丁目6番3号チカミビル3階

新型コロナウイルス感染拡大に伴う学生支援(募金)のお願いについて

高知大学では、コロナ禍で大きな影響を受けている学生を支援するため、引き続き募金のご協力をお願いしています。

実施事業の内容

- 【さきかけ志金】
- ・コロナ禍における学生への食費等に対する支援
 - ・新型コロナウイルス感染症対応支援金給付事業
 - ・課外活動参加時のPCR検査費補助

【修学支援基金】

- ・経済的理由で就学が困難な学生への支援



PCR検査キット



学部新1年生へ配布した大学生協利用券

インターネット決済サービスによる「クレジットカード決済」「コンビニ決済」「Pay-easy決済」がご利用いただけます。

〈お問い合わせ先〉

高知大学総務部総務課広報室

TEL:088-844-8759 FAX:088-844-8738
E-mail:sj02@kochi-u.ac.jp

詳しくは
大学のホームページを
ご覧ください。



<http://www.kochi-u.ac.jp/shien/message.html>

入試直前イベントのご案内

一般選抜の出願に向けた「高知大学の特長と入試」の紹介イベントです。(事前申込制) 学部の教員がみなさんのご質問にお答えします。お気軽にご参加ください。

対象

受験生、高校2年生、高校1年生
高校・予備校教員、保護者の皆様

学部

- 人文社会科学部
- 教育学部
- 理工学部
- 医学部
- 農林海洋科学部
- 地域協働学部

2022年1月 出願直前! オンライン入試相談会

【個別相談会】
開催日: 2022年1月21日(金)~23日(日)

一般選抜出願直前の個別相談会です。
学部教員が出願で迷っているみなさんの不安や
ご質問にお答えします。何でもご相談ください!

ご参加お待ちしております!



お問い合わせ先

総務課広報室 TEL.088-844-8100
E-mail: kh13@kochi-u.ac.jp

相談会の詳細やお申し込みは右記QRコードから

■ホームカミングデー2021〈高知大学にまつわる思い出・エピソードを募集中〉

2021年度ホームカミングデー(2022年1月下旬にオンライン開催)の新企画として、高知大学にまつわる思い出やエピソードを募集しています。あなたの投稿で今年のホームカミングデーを盛り上げていきましょう!

サークルの新入生募集で、
食堂の前の池の周りをずっと
うさぎ跳びしていました!

高知大学の卒業生に限らず
あらゆる方の投稿をお待ちしています

室戸貫歩で海岸線から
見た朝日が忘れられない

学部棟の教室で研究を
徹夜でやっていました!



高知大学にまつわるものでしたら
何でもOKです!

エピソードに関連する画像も
大歓迎です!

投稿について

可能な限り具体的な場所と、
その場所にまつわるエピソードを
右記のQRコード、もしくは
高知大学HPからのリンク
先で投稿してください。

投稿はこちらから



投稿いただいたエピソードは
ホームカミングデーのサイトや高知大学公式SNS
などでご紹介させていただきます

■高知大学古本募金

読み終わった本で高知大学をご支援ください。高知大学古本募金は、皆様から読み終えた本・DVD等をご提供いただき、その査定換金額が高知大学に寄附される取組です。古本募金を通じて集まった寄附金は「高知大学さきがけ志金」として受け入れ、本学の教育研究・社会貢献活動の向上のために役立てられます。

〈お問い合わせ先〉

☎ 0120-29-7000 (受付 9:00~18:00)

本・DVD

↓配送↓

5冊以上で
送料無料

古本募金

きしやぼん

↓査定・寄附↓

査定額+100円
を大学へ寄附

大学

高知大学古本募金

検索

運営協賛

古本募金きしやぼん(嵯峨野株式会社)

■高知大学のラジオコーナー

高知大学の教育・研究・地域貢献等の情報をFM高知でお届けしています。ラジオ視聴用アプリ「radiko」をダウンロードしていただくと、スマホやパソコンで全国各地でも視聴していただけます。



※写真はイメージです。

放送中

FM 高知 81.6 MHz

「Monthly 高知大学」

【毎月】第4金曜日

10時15分~

■広報誌 Lead への広告募集中!

高知大学は、地域に根差した大学を目指し、高知県内に事業所等を有する企業等を対象に、「広報誌 Lead」への広告(有料)を募集しています。希望される方は、下記までお問い合わせください。

高知大学総務課広報係 E-mail: kh13@kochi-u.ac.jp

■広報誌 Lead 2021冬号アンケートご協力をお願い

アンケートにご協力いただいた方の中から抽選で5名の方に高知大学オリジナルグッズをプレゼントします。(当選者の発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます) 右記の2次元バーコードを読み込み、表示されたアンケート画面にてご回答ください。回答期限: 令和4年3月末



新型コロナウイルスに対する本学の対応については、大学ホームページのトップページ「重要なお知らせ」に最新情報を掲載していますので、ご覧ください。

お問い合わせ先

皆様からのご意見・ご感想をお待ちしております。



高知大学
Kochi University

総務課広報室

高知大学

検索

http://www.kochi-u.ac.jp/



バックナンバーは
こちらから
ご覧いただけます。



TEL.088-844-8643 FAX.088-844-8033

〒780-8520 高知市曙町2-5-1 E-mail: kh13@kochi-u.ac.jp